

木原 均 博士とスポーツ

スポーツを科学に

ベースボールに野球の訳語始まる

1894

スキー用具渡来

1895

第1回国際オリンピック大会アテネで開催

1896

八甲田山雪中行軍事件起こる

1902

北大にスキーもたらされる

1909

レルヒ少佐、初のスキー講習(高田)

1911

北大スキー部創設

1912

北大遠藤吉三郎教授、ノールウェーより

1916

スキーと2本ストックを持ち帰る



日本でジャンプ競技始まる

1917



中学生に投げの指導をする

浪人中、野球クラブ「隼」に属し、
野球に熱中、テニスにも熱中

東北帝国大学農科大学(現北大)予科
入学、スキー部入部

この頃、北大野球部投手として活躍、
豪速球を投げる

スキージャンプの研究に着手、
コーチも始める

エゾ富士 スキーで登頂

日本最初の仮設ジャンプ台を

小樽に作る

論文「スキーに関する資料」発表、
ジャンプも解説

1919

遠藤吉三郎・木原均共著

『最新スキー術』発行

1920

奥手稲・手稲山スキー縦走、

カラフトへスキー行



スターを歩いて

第1回冬季オリンピック大会(シャモニ)

1924

全日本スキー連盟(SAJ)創立

1925

国際スキー連盟(FIS)加盟

1926



ラハチにて(フィンランド)

日本代表として国際スキー連盟(FIS)
加盟の任を果たす(フィンランド)

(~27)フィンランド、スイス、イタリア
各地をスキー行脚

日本で冬季オリンピック大会開催のため、
候補地探しをする

第2回冬季オリンピック大会

1928

日本初参加(サンモリッツ)

ノールウェー「雪の三超人」来日

1929

通訳として『雪の三超人』と同行、
ジャンプ台適地探し

1930

国際スキー大会に日本代表として出席
(オスロ)

(~38)全日本スキー連盟技術委員長

第3回冬季オリンピック大会(レークプラシッド)

1932

第4回冬季オリンピック大会

1936

(ガルミッシュ・パルテンキルヘン)

第5回冬季オリンピック大会会場札幌に決定

1937

日支事変の為、札幌オリンピック大会開催を返上

1938



オリンピック村にて(インスブルック)

(~46)全日本スキー連盟副会長

第6回冬季オリンピック大会(オスロ)

1952

第7回冬季オリンピック大会

1956

(コルチナ・ダンペッツォ)

京都大学時代は、学生チームとの
テニス対抗試合で長く無敗を誇る
遺伝学研究所時代も研究の合間に
野球、テニスを楽しむ

第8回冬季オリンピック大会(スコーパーレー)

1960

(~68)全日本スキー連盟会長
第8回冬季オリンピック大会
日本選手団団長(スコーパーレー)

第9回冬季オリンピック大会(インスブルック)

1964

第9回冬季オリンピック大会
日本選手団団長(インスブルック)

第10回冬季オリンピック大会(グルノーブル)

1968

(~71)国際スキー連盟(FIS)理事

第10回冬季オリンピック大会
(グルノーブル)に役員として参加

1970

赤倉にてスキー滑り納め

第11回冬季オリンピック大会(札幌)

1972

第11回冬季オリンピック大会
(札幌)組織委員、役員として参加

大会に先立ち、
スポーツ医学国際会議で記念講演

『通し矢の由来とその興亡』

